

湖畔の聲

毎月一回 一日發行



秋のみずうみ

近江兄弟社發行

10

滋賀縣近江八幡局區内出町五丁目
編集人 錦 織 恒 夫

滋賀縣近江八幡局區内西末町六番地
印刷兼 内 炭 政 三

京都市下京區唐橋門脇町二八
印刷人 河北印刷株式會社

滋賀縣近江八幡局區内
魚屋町元二六近江兄弟社
發行所 湖 聲 社
振替大阪七〇五三番

月刊(毎月一回發行)
定價(半年送共)百四十四圓
送料 一部 二 四
一部 四 十四圓

世界之家庭藥 · 外傷と化粧に

メンソレータム

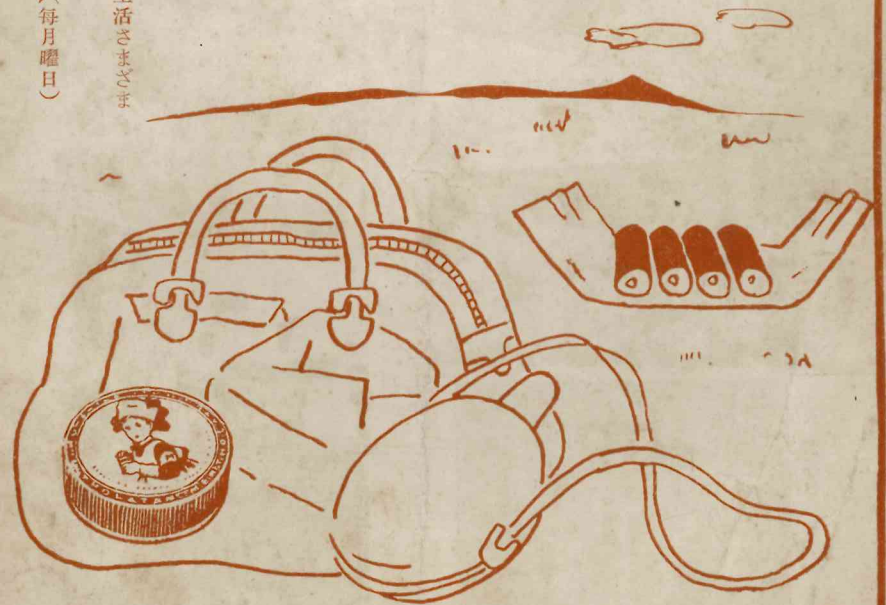
あすは遠足

おりんご キaramel 水筒
お忘れものはないですか
みんな枕許にそろえておいて
夢安らかに おやすみなさい
母が心のメンソレータム
毒むし すりきず 怪我のとき
そつと加えておきました
あすは たのしい遠足よ

新日本放送
中部日本放送
ラジオ九州
ラジオ東京

朝 七・三〇―
朝 七・三〇―
朝 七・三〇―
晝 〇・二五―

アメリカ生活さまざま
混聲合唱(毎月曜日)



罐 50 瓶 ¥100 徳用大瓶 ¥200

萩 咲 く

むさしのの秋は 萩の花から来る

あるか なきかの風にゆれつつ

小さい葉裏をかへす

このしなやかなる枝をみよ

萩は

さからはす

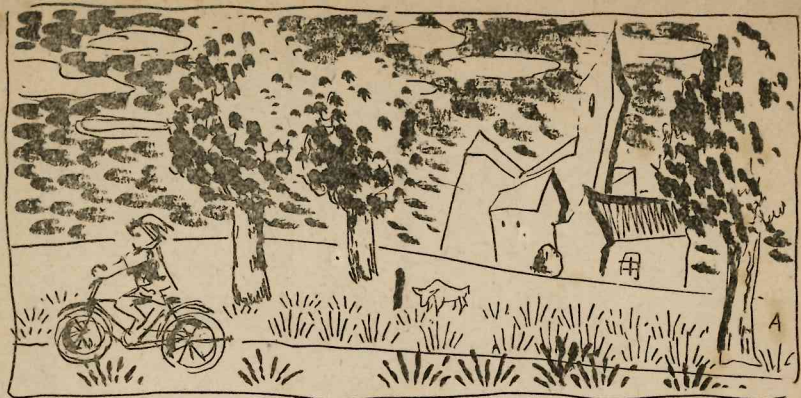
一切を 天地にまかせて

かく 美しく 花ひらく

竹内 てるよ

十月號目次

表紙	伊藤定一
クリスマスチャンと祈	長谷川初音 1
湖聲歌壇のニュース	4
失敗者の自叙傳	一柳米來留 5
新唐詩選	土岐善麿 10
興味ぶかい書	志賀 勝 10
良書のかずかず	桑田秀延 10
古典への憧憬	北岸佑吉 11
泪した本	田中克己 11
人生の暴風	齋藤敏夫 12
美しい海岸線	吉田希夫 15
レビ記の律法について	高橋 虔 19
童話作家 野邊地天馬先生を訪ねて	22
恵の水脈	西村關一 23
社會時評	田口敏三 26
問と答	柴田五郎 28
近況ろく	30
カット	天野大虹・池田猷兒



天野大虹・え

基督教入門

クリスマスチャンと祈

長谷川 初音

編集氏から「もうすこし書きつづけて下さい」と云われて、逆に氣のついたことは「おお、そうだった、いつまでもよい氣になつて書きつづけて居れる私ではなかつたのだつた」ということでした。こうなると、すこし氣ぜわしいものを感じ出します。それがこのテーマを選ばせたのであります。

× × ×
舊約聖書を見ますと、一章の三十一節には人が最後に(第六日目に)つくられたと書いてあり、二章の七節には、まず人間がつくられたと書かれています。

これを「だから馬鹿氣た物語よ」と、嘲う人もありますけれども、これは聖書の編纂者が何の心配もなく、いろいろな資料のあちこちを、ちぎつて並べた素材さでありよきであ

ると同時に、

神様のおつくりになつた生きものの中では人間が一番上等につくられているのだ。生物の一番發達したものが人間なのだ。人間が一番神様に近いものに、つくられているのだということを、右からいつても左からいつても表からいつても裏からいつても間違がないといつてることにもなりますので、この點馬鹿げた話でも、つくり話でもなく、人間にとつて責任のある事實となつて迫つて來るのであります。

そこで問題になつて來るのが「人間と他の諸動物との相異點はどこにあるか。」であります。これについては御存しの通りいろいろなことあげられています。

曰く、人間は他動物よりも、手と足の區



秋深む蒲生平野

小學生が「ゲンギキョウ」といつたのを笑えない現代人に、日本の古典を忘れないでほしいと痛切に思いました。

これは、ただに、社會的な通俗文藝ではなく深い人間性をつぎとめています。

近松は、日本文學の一つの金字塔です。これは、ただに、社會的な通俗文藝ではなく深い人間性をつぎとめています。

今年、我が國最大の劇作家 近松門左衛門の生誕三百年目に當るので、今秋、東西でその記念の催があるはずだ。

最近、日本古典全書の近松門左衛門集（高野正己校註）が、上、中、下三巻揃つたのを幸い、一寸調べの必要もあつて、各作品をいろいろ読み返していますが、今更ながら、その偉大さには、敬服の思に堪えられませ

ん。百四、五十篇に上る浄るりやカブキの全部には、とても眼は通せませんが、數篇の代表作のみでも、その中には、近松以前のあらゆる文化が消化されているし、また近松以後の文藝文化に廣い影響を與えています。

古典への憧憬

劇評家 北岸 佑吉



池田 猷 兒・え

ハガキ書評

新唐詩選

日比谷圖書館長 土岐 善 鷹

最近、良書の出版もすくなくありませんし、勉強のため読んでいますが、岩波新書の『新唐詩選』前編 吉川幸次郎博士のものから、涼風をうけました。

唐詩をもっと多く、こういうふうにならば一般に味わせることは、人間をよくさせるでしょう。それにつけても、早く『杜甫私記』の續刊されることを待望しています。

興味をかき書

關西學院大學教授 志賀 勝

高坂、壽岳、松村氏ら十氏共著 『讀書の伴侶』 弘文堂 二四〇圓

これは、人間的教養のための行きとどいた讀書案内であるとともに、それ自身が、實に、興味ぶかい讀物です。

良書のかずかず

東京神學大學々長 桑田 秀 延

讀者の方々に向くかどうか判りませんが、左記は、私の手許にいた良書です。

石原 謙著 『中世キリスト教史』 岩波書店

宮本武之助著 『福音の眞理』 新教出版社

これは、學生に福音の眞理を訴えたものでなかなかよく書いています。

クレイグ著 『初代キリスト教史』 教文館

H. Richard Niebuhr, Christ and Culture, 1951, Harper.

Richard Kroner, Culture and Faith, 1952, University of Chicago Press.

クロナーの本は、宗教哲學序説のような本で、元來、カントやヘーゲルの地盤に立つていた著者が、最近、世界のカタストロフを身を以て経験し、バルトやニーバーの神學にも觸れて書いたもので、洞察に富んだ、水準の高い、近頃での最も傑れた著作と思えます。著者は、ユニオン神學校教授。

泪した本

詩 人 田 中 克 己

奉天三十年 クリスチー神父著 矢内原忠雄譯

このごろ新聞雑誌ではめそやされている書は、みなつまらぬ書を、本屋か著者が廣告しているにすぎません。

右の書は、昭和十三年初版その後、數版を重ねたので古本屋でもなんなく見付かります。小生もこのごろよみかえし、思いがけず泪いたしました。（岩波新書ですが、翻譯權の關係か、戦後は出ておりません）

みづうみより月 秋空の青さが、みづうみ一面に、靜かなに沈み、仲秋の傳えられる「月出の濱」より 名月が、湖面（うの濱）より 名月が、湖面（うの濱）より

表紙の説明 浮ぶ美しさは琵琶湖ならでは味い得ないでしょう。